

西精工株式会社

QC検定の導入・活用について

西精工 株式会社
品質保証部 品質保証課
品質保証係 実松 泰三

1 はじめに

当社の創業は1923年（大正12年）、創業者 西 卯次八がボルトの切削加工を徳島で始めた所からスタートします。戦後1947年（昭和22年）よりナット・割りピンの製造を開始。1960年（昭和35年）新鋭のナットフォーマーを導入し、関西圏を中心に家電・弱电メーカーへ販路を開き、さらに1970年（昭和45年）には新しく自動車規格のナットを製造。自動車業界へと販路を拡大していきました。この時、創業当時より培ってきた切削技術に圧造技術を融合させ、ベアリング鋼をフォーマー加工し、仕上げて切削加工することによって、歩留まり改善や加工時間の圧縮に成功。この製品は長期に渡り、売り上げ全体の20%強を占める主力製品のひとつとなっていきました。

しかしその後、自動車業界における生産拠点の海外移転に伴い、当社を取り巻く環境は大きく変わってきました。さらに厳しさを増した環境に順応すべく、この時期当社ではもう一度、創業者の想いに回帰する動きが起きました。『モノづくりは「人」づくりである。』『お客様、協力会社様、社員とその家族、地域のみなさま、これら大切なモノを本当に大切に。』『創業者の気持ちを回顧し、現社長西泰宏が「創業の精神」「経営理念（ミッション・ビジョン・行動指針）」で組織としてあるべき姿を策定しました。『地元徳島にこだわる。』『社員を一番大切な家族と捉え、幸せにする。』という社長の想いのもと、仲間の成長を自分の喜びとし、想いを共有し、みんなが幸せになる為に行動する「大家族主義」が当社の大切な価値観となりました。

大家族主義を成立させる為に必要なのは、同じ立場で対話できる環境＝「全員正社員」「終身雇用」を守り抜くこと。社員一人一人が学び、お互いに感謝の心を忘れず、対話による気付きを通じて相互成長し、人間力や知識・技能を高め続けること。社会要請に応え地元貢献し、社会から必要とされる会社になる事が重要だと当社は考えます。これからも全体最適のモノづくりを追求し、徳島から「ファインパーツの極みを発信する」事で、お役立ち度の高い製品を創造し続けていきます。

2 会社概要

- 【会社名】西精工 株式会社
- 【所在地】徳島市南矢三町 1-11-4
- 【代表者】代表取締役社長 西 泰宏
- 【資本金】3,000 万円
- 【売上高】44 億 5,219 万円（平成 29 年 7 月）
- 【従業員】245 名（平成 30 年 1 月 31 日現在）
- 【事業内容】ナットを中心としたファインパーツの製造・販売
- 【拠点】本社工場・石井工場・土成工場
- 【URL】<http://www.nishi-seiko.co.jp>
- 【沿革】

大正 12 年 4 月 故会長 西 卯次八が西製作所を創設し、ボルトの製造開始
昭和 14 年 4 月 故名誉会長 西 幸信が工熔社製作所を創設し、完成バイトの製造開始
昭和 22 年 3 月 戦後、ナット・割りピンの製造開始



昭和 35 年 2 月 ベ어링旋削加工開始
 昭和 35 年 8 月 西精工株式会社に改組
 昭和 53 年 8 月 小集団活動発足
 平成 13 年 1 月 ISO 9002 認証取得
 平成 15 年 8 月 ISO 14001:1996 認証取得
 平成 15 年 9 月 ISO 9001:2000 認証取得
 平成 24 年 3 月 「第 1 回 四国でいちばん大切にしたい会社大賞」
 中小企業基盤整備機構 四国支部長賞 受賞
 平成 25 年 3 月 「第 3 回 日本でいちばん大切にしたい会社大賞」
 中小企業庁長官賞 受賞
 平成 26 年 2 月 第 47 回 グッドカンパニー大賞 優秀企業賞 受賞
 平成 26 年 2 月 2013 年度 日本経営品質賞 中小規模部門 受賞
 平成 26 年 3 月 平成 25 年度 おもてなし経営企業選選出
 平成 28 年 7 月 ユースエール認定企業 認定
 平成 29 年 1 月 ホワイト企業大賞 受賞
 平成 29 年 9 月 プラチナくるみん認定企業 認定

様々な形状・材質・用途の
 ナット・パーツを創り出す
 開発力・製造力



3 QC 検定導入の経緯

当社は 1970 年以来、自動車用ナットを中心に製造を行ってきました。溶接ナットなど、大量にお客様が必要とされる製品を、遅滞なく必要な場所へお届けする事で、お客様へのお役立ち度を向上させてきました。比較的容易に製造できる自動車用部品の生産拠点が、中国や東南アジアなどに移動するにつれ、国内で使用される自動車用ナットには、多品種少量・高品質が求められるようになりました。当社はこの環境変化の流れを受け大量生産から少量・高品質にシフトし、お客様へのお役立ち度が高いファインパーツ（高品質・高精度・極小）創造へと、生産の中心を移行していきました。

ファインパーツ創造を実現するには、社員全員が今まで以上に知識・技術を向上させる必要があります。ここで急務になったのが教育体系の再整備です。役割と能力を重視した当社の教育体系の中、各部門の専門分野での能力向上のための資格取得は進められていました。しかし部門を超え、社員全員の共通認識として用いる事ができる用語、事実に対して同じ分析結果で対話出来る、体系的な知識の必要性に直面しました。また QC 的モノの見方・考え方は全ての仕事に通じるモノであり、知識を身に付け実践する事で、仕事の質のレベルアップにつながります。これらの経緯から QC 検定の導入を実施し、総務でも、営業でも、製造現場でも、部門を問わず資格取得に挑戦できるよう、教育体系を変革させました。

導入当初の懸案事項の一つが、資格取得が目的となり、合格したらお終いとならないかということでした。しかし当社では以前から小集団活動を展開していた事もあり、QC7 つ道具や工程能力指数などの QC 手法を、QC サークルや実務でうまく活用する事例が見られるようになりました。自ずと小集団活動も活性化し、相互に良い影響を与え合うようになりました。前述した通り、社員全員が同じ用語・手法を理解できるのが理想です。社員全員が QC 検定を取得できるよう、先に合格した社員が講師となり、各部門で勉強会を開いています。そうする事で合格者も徐々に増え、また人に教える事で講師の理解も深まり、より実践的に仕事に活かせるようになります。こういった姿が、各部門で見られるようになってきました。これは QC 検定の導入による、嬉しい誤算の一つです。QC 検定の勉強を通じてお互いに影響を与え合い、相互成長するという効果も発揮されるようになりました。

4 経営方針から教育訓練へのつながり

創業の精神

①人間尊重の精神

人間尊重の経営で、人と人とのふれあいと絆を大切にしたい、明るく活気のある会社を創りたい。

②お役立ちの精神

独自の技術開発力とサービスで、カスタマイズされた製品を提供し、お客様の価値を創造したい。

③相互信頼関係の精神

お客様とお取引先との信頼関係を丁寧に築き上げて、相互繁栄をはかりたい。

④堅実経営の精神

身の丈に合った堅実経営で、会社を末長く存続・発展させて、地域社会に貢献したい。

⑤家族愛の精神

社員は一番大事な家族と一緒に、大家族主義で社員の幸せを追求したい。

経営理念

私たちのミッション

私たちは、「高品質・高機能のパーツ・ナットの創造事業」を通じて、モノづくりを支え、人々の豊かな生活と幸福・社会の発展に貢献します。

私たちのビジョン

私たちは、人づくりを基点に「徳島から世界へファインパーツの極みを発信する」創造力・技術力ナンバーワン企業を目指します。

私たちの行動指針

①私たちは、人と人とのふれあいと絆を大切にして、自己の人間力を高めます。

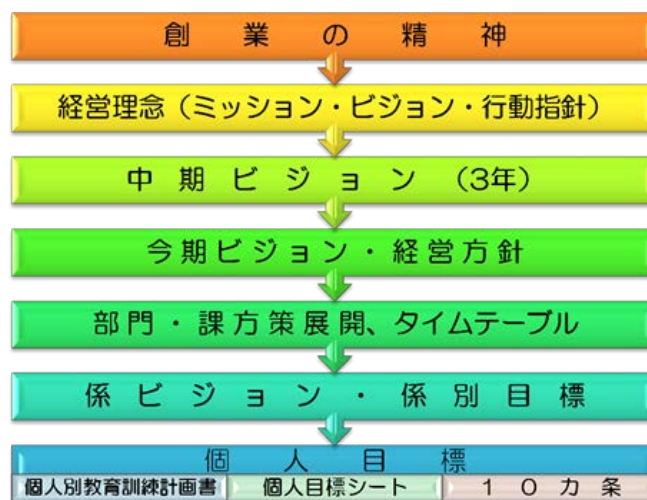
②私たちは、改善・改革に努め、革新の技術で安全安心の製品を提供します。

③私たちは、お客様や協力会社、地域の人々、働いている仲間感謝して、お互いにとってなくてはならない関係を築き上げます。

④私たちは、社会人としての真摯さ・倫理観を大切に、関連する法令・規範を順守します。

⑤会社は、積極的に人間的成長の場と機会を与え、社員とその家族の物心共に豊かで幸せな生活を支援します。

これら創業の精神・経営理念（ミッション・ビジョン・行動指針）が、当社の根幹を為すモノです。方針から教育訓練へのつながりは下記図のようになります。



当社の業績評価は、年2回実施されます。当社では後述する個人評価に加え、係単位の評価が重視されています。係評価は約20の評価項目で、係別面接（社長による直接面接）による対話の中で行われます。この係評価が導入された事で、個人よりも係の仲間全員で、目標達成に向けて協力しようと

いう流れが生まれてきました。この一例が係単位で運営する「〇〇道場」（〇〇には各部門の工程名が入ります。）で、朝礼時（1時間）や就業後の時間を利用して、自主的に勉強会を実施していくという動きに繋がっています。

個人評価では、役割と能力が重視されます。それぞれが伸ばしたい役割・能力を定め、進捗管理し結果を評価する仕組みとして「個人別教育訓練計画書」があります。

「個人別教育訓練計画書」

役割

- 1.仕事の任せ方
- 2.職務知識
- 3.問題解決
- 4.折衝の内容・程度
- 5.仕事への取り組み姿勢
- 6.チームワーク・指導・育成を5段階評価（評価基準に照らせ合わせて評価）

能力

3段階評価（職能マップの中から今期に伸ばしたい能力6つを選ぶ）

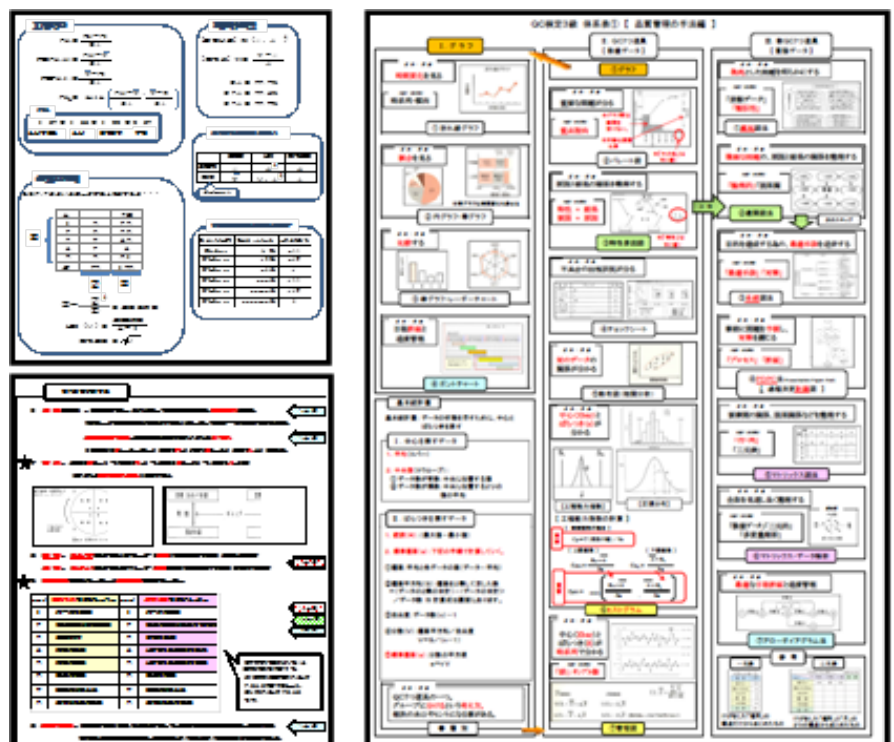
5 取り組みの具体例

上記の資格取得や知識の向上を図るため、企業内大学（課長が中心に講師を行う）を開講しています。冷間鍛造勉強会・機械保全勉強会などのほか、経営品質勉強会、QCサークル運用やQC検定勉強会などの講座があり、社員の誰もがどの講座でも受けることができます。講師がテキストを作成、受講後に習熟度を測る事で個人の役割・能力のレベルアップを図っています。またテキストの作成や人への教育を通じて、講師自身が一番勉強になっています。勉強会を通じての相互成長、社内の連携強化、お互いに助け合い、感謝し合う心を育むなど、全てが組織にとっての良い循環につながっています。

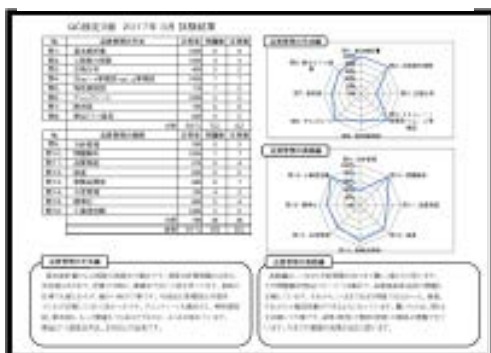
企業内大学風景



講師の自作テキスト



習熟度評価



また前述の通り、企業内大学とは別に、各係で先に合格した者が、これから受検する者のために勉強会を開いています。その一例を紹介します。

捻立係・製品管理 T の QC 検定勉強会への取り組み

捻立係では、QC 検定 2 級取得者が講師となって月 1 回程度勉強会を開いています。

年度計画を立て、3 級合格に向けたカリキュラムを組んで勉強会を進めている他、個人の項目別の理解度（下記スキルマップ参照）を調べ、それに合った勉強会を開き、係員全員 3 級合格を目指しています。

製品管理 T など他の係でも QC 検定 2 級合格者が講師となって、3 級受検者への勉強会を開いています。また各係で連携して合同勉強会などを行う事で、係間での相互成長を目指しています。

勉強会風景



スキルマップ

QC検定3級 個人別理解度スキルマップ1/2		2級取得者		3級取得者	
1. 理解度		2. 理解度		3. 理解度	
項目	理解度	項目	理解度	項目	理解度
QC検定の考え方		QC検定の考え方		QC検定の考え方	
QC検定の目的		QC検定の目的		QC検定の目的	
QC検定の範囲		QC検定の範囲		QC検定の範囲	
QC検定の対象		QC検定の対象		QC検定の対象	
QC検定の手法		QC検定の手法		QC検定の手法	
QC検定のツール		QC検定のツール		QC検定のツール	
QC検定の結果		QC検定の結果		QC検定の結果	
QC検定の改善		QC検定の改善		QC検定の改善	
QC検定の評価		QC検定の評価		QC検定の評価	
QC検定の報告		QC検定の報告		QC検定の報告	
QC検定のまとめ		QC検定のまとめ		QC検定のまとめ	

また QC 検定で学んだ知識は、QC サークル活動や個人の改善提案、実務へも活かされています。特に QC サークル活動は、4 か月に 1 つのテーマ完了を目標に、30 サークルが活動しています。年間の活動内容を発表する場として、選ばれた 4 サークルが年末 QC 大会で報告を行い、優秀な発表には金賞が贈られます。これが来年の励みとなり、他のサークルの目標となっています。

年末QC大会



受賞サークル



6 受検者の状況

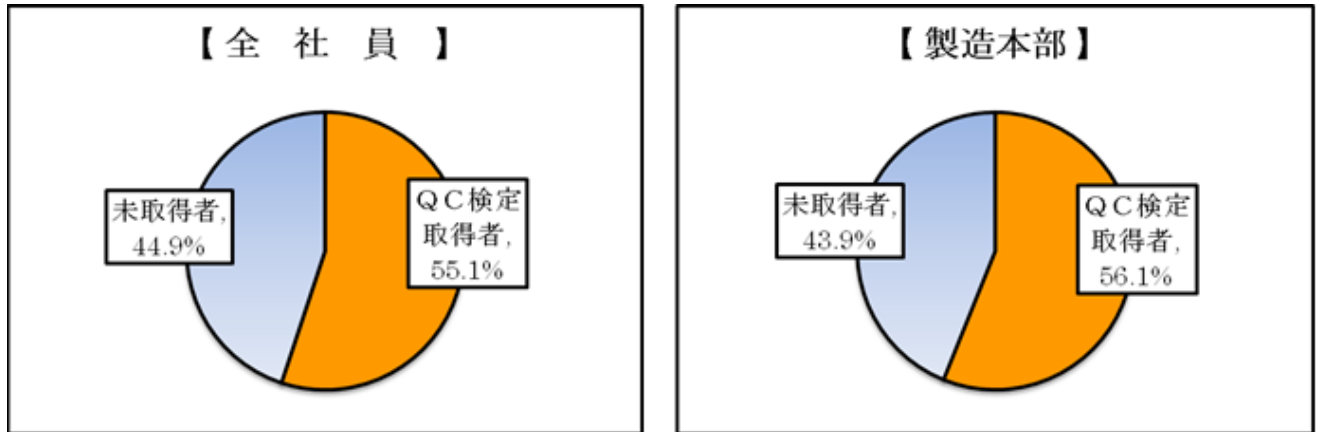
平成 19 年より受検を開始し、最初 3 名だった合格者も平成 29 年 2 回検定試験終了時点で 3 級以上合格者が 135 名となり、55.1%と社員の半数以上を占めるようになりました。（うち 2 級合格者 16 名）

男女比でみると男性全体の 50.8%、女性全体の 72.0%が 3 級以上合格者です。

部門別に見ると総務部全体の 50.0%、営業本部全体の 54.8%、製造本部全体の 56.1%と、部門の区別なく QC 検定に取り組んでいます。

検定料を会社負担で支援しているのも、積極的受検が出来る動機の一つとなっています。

QC 検定取得者率



7 合格者の声

【2 級合格者】

総務部 経営管理課 佐野 亘 2016 年第 2 回合格

① 受検動機

私は自部署のサークル活動アドバイザーという役割を頂いています。せっかくのサークルメンバーの頑張りや、的確なアドバイスをすることで更に成果につなげていきたい。その為には、自分の知識向上が必要であると思いました。何よりも、チームメイトが QC 検定 3 級に挑戦しているのを目の当たりにして、「負けていられない」という思いが、QC 検定 2 級への挑戦を決意させました。

② 受検前・受検時の感想

いざ試験勉強に取り組んでみると、自分の知識がいかにか 2 級レベルに達していないかを思い知らされました。「これは地道に勉強するしかない。」と苦手な計算問題を中心に、毎朝始業前の時間を使って勉強を積み重ねました。初めての 2 級受検はまず自力で挑戦したい！と、あえて企業内大学の受講はせずに独学で勉強しましたが、理解できないまま試験を迎えた項目もあり、今思えば素直に企業内大学で学べばよかったと反省しています。

③ 合格後仕事に活かされていること

サークル活動のアドバイスをする上で、QC ストーリーがきちんとロジカルに展開できているのか、どこにポイントがあるのかを的確に示せるようになりました。また、問題に対する改善計画についても、そのプロセスが問題解決につながるのか？を計画段階で検証し、限られたリソースで最大限の結果を出せるように考えることが出来るようになってきました。

製造部 検査係 大智 麻李亜 2017 年第 2 回合格

① 受検動機

QC 検定 3 級に合格したモノの、サークル活動を行っていると分らない事だったり、発言が少し増えただけだったり、まだまだ知識が足りないと感じたからです。

② 受検前・受検時の感想

過去に 2 度受検させて頂いていたので、簡単ではないのは分っていました。今回は毎日 1 時間

以上の勉強時間を確保するようにし、分らない所はテキストで調べたり、南係長に教えて頂いたりして受検に臨みました。

③ 合格後仕事に活かされていること

動機であったサークル活動での発言が増えました。そして、検査業務中に不具合品を発見すると『なぜ?』と考えるようになり、リーダーに理由を尋ねるようにもなりました。チーム内では3級受検者の力になれるように頑張ります。

製造部 工務課 工作係 幾田 祐樹 2017 年第 2 回合格

① 受検動機

工作係は「メンバー全員 QC 検定 3 級以上合格」を目指しています。当時まだ QC 検定に合格できていなかったのも、受検を決めました。いま持っている QC 知識以上の知識を得たかったので、2 級合格を目指しました。

② 受検前・受検時の感想

前職で品質管理業務を行っていた事もあり、品質用語については知識を持っていましたが、実験計画法、検定・推定等の計算問題にはあまり馴染みがなく、一からの勉強となり非常に苦労しました。しかし、2 級受検経験者のチームメイトから問題集を貸して頂いたり、解法のコツを教えて頂いたりとサポートして頂いた事が、大きな力となりました。仲間のサポートを受け、自信を持って試験に臨めた事が、合格に繋がった大きな要因だと感じます。

③ 合格後仕事に活かされていること

工具の問題(低耐久、異常摩耗・破損など)を解決する上で、QC 知識が活かされています。問題に対して QC ストーリーに則った考えをする事で、真因に辿り着くスピードが上がり、スピーディーな改善ができるようになったと感じています。今後は「工作係全員 QC 検定合格」を達成するために、自分がサポートして頂いた経験を活かし、今度は私が受検者をサポートする側に回って、チームの品質知識向上に努めます。

製造部 工務課 工作係 岡野 裕樹 2017 年第 2 回合格

① 受検動機

私の所属するチームを見ても、大半の先輩方が QC 検定を合格しており、またさらに資格を取得し自身の成長を目指していました。その空気に背中を押され「自分もがんばろう」と感じ、QC 検定 2 級への挑戦を決意しました。

② 受検前・受検時の感想

最初はテキストを見ても全く理解できませんでした。ですが会社主導で勉強会を開催してくれたり、現場の先輩方がわからないところを教えてくれたり、少しずつ理解することができ始めました。理解が出来てくるとなると、勉強も面白くなり楽しく進めることができました。

③ 合格後仕事に活かされていること

試験に苦労した分、QC 的な見方や考え方は以前よりしっかり身に付いたと感じます。特にデータを基にした分析は、品質向上から経費削減まで全てに活かせるので、今後もしっかり勉強し、チーム全体のレベルアップに貢献していけるように頑張ります。

営業本部 製品開発課 生産技術係 高田 悠大 2016 年第 2 回合格

① 受検動機

私が QC 検定を受検した理由は、チームのリーダーに勧められたからです。QC 検定取得に向けて勉強すれば、品質に対する意識を高めることができると教わり、新人としてチームの役に立つため、また自己の成長のために是非チャレンジしようと思いました。

② 受検前、受検時の感想

学生の時と違って社会人となると、日々の仕事の合間を縫って勉強しなければなりません。私は時間の使い方が上手くいかず、休みの日に詰め込んで勉強していました。もう少し早めの準備

を心がけて試験に臨むべきだったと反省しました。

③ 合格後、仕事に活かされていること

今までは QC 活動の際に、先輩方が何をしているのか理解できず、資料等もどう見ればいいのか分からずに足手まといの状態でした。しかし QC 検定を勉強する事で得られた知識によって、その後の QC 活動では、どこに問題があり、どう解決すればよいのか、グラフ等から自分で考えることができ、発言できるようになりました。

【3 級合格者】

製造一課 成型 1 係 正木 研 2017 年第 1 回合格

① 受検動機

チーム全員で QC 検定 3 級を合格しようと言う方針があったので受検しました。また、実際に仕事を進める上で、必要な知識だと感じていました。

② 受検前・受検時の感想

勉強範囲が広いため、中々スムーズには行きませんでした。講師の実松さんがデータの見える化をして、個人に合った勉強方法を一緒に考えて頂き、合格する事ができました。

③ 合格後仕事に活かされていること

トラブルが起きた際に原因追及する思考が、以前より成長したと思います。また QC サークル活動においては、しっかり自分の意見が発言できるようにもなりました。

製造一課 成型 1 係 藤井 賢吾 2017 年第 1 回合格

① 受検動機

チームのみんながこの資格を持っているので、私も受けようと決めました。

② 受検前・受検時の感想

計算問題が苦手で苦勞しました。習熟度評価で項目別の理解度をフィードバックして頂いた時に『問題がキチンと読めていて、出題者の意図を読み解く読解力があります。』と言って頂いたので、文章問題をしっかりと読んで、解く事を意識しました。受検前は勉強会の時に作って頂いた資料を何回も読み返しました。

③ 合格後仕事に活かされていること

何か問題が発生した時に、事実をよく観察して、なぜこの問題が発生したのか、その発生原因を自分で考えるようになり、そういう点で活かされているように感じます。

製造二課 捻立一係 多田 光一 2017 年第 2 回合格

① 受検動機

当社で仕事をしていく上で必要な物ですし、入社して 1 年間 QC 活動をしてきましたが、知らない事も多く、ついていく事があまり出来ていませんでした。それで『先輩方に迷惑をかけたくない。』と思い、受検する事にしました。

② 受検前・受検時の感想

QC 検定に出てくる用語や基礎的な所は、ある程度知っていたのですが、新 QC7 つ道具や計算問題は初めて聴く事ばかりで苦勞しました。しかし、会社の勉強会や家で予習復習をコツコツする事で、理解していく事ができました。

③ 合格後仕事に活かされていること

QC 活動では先輩方がやっている、言っている事がきちんと理解する事ができ、QC サークルに取り組むのが楽しくなりました。また仕事や私生活などで疑問に思った事や、失敗してしまった時は QC 的な考えで物事を解決する事が出来るようになりました。

製造四課 製品管理 T 久米 祥太 2017 年第 2 回合格

① 受検動機

毎月の全社朝礼で、自分より若い子たちが合格しているのを見て、自分もやらなければと思いました。それに、QC に対してもっと詳しく知りたいと思い、チャレンジしようと思いました。

② 受検前・受検時の感想

計算問題が苦手です。とても苦勞しました。分らない問題は実松主任に質問し、分るようになるまで説明していただいた事で、結果につながったと思います。

③ 合格後仕事に活かされていること

仕事で QC 的モノの見方・考え方をすることが習慣になるよう、普段の生活でもそれを心がけるようになりました。そうすることで前工程や後工程の仕事も気にかかるようになり、視野も少しずつ広がってきた気がします。また結果を考えて段取りをする事が作業改善につながり、心に余裕が生まれてきました。

製造部 検査課 河野 和代 2017 年第 2 回合格

① 受検動機

まず会社に資格取得制度がある事が大きかったです。また以前に勤めていた会社では、QC 活動をした事が殆どなかったので、会社の取り組みを理解する為に、品質管理手法をきちんと学ばなければいけないと思いました。

② 受検前・受検時の感想

もともと勉強が苦手だったので、毎日継続して勉強する事が出来ませんでした。しかし実松主任が時間を割いて勉強会を開いてくださったり、理解しやすい資料を作って頂いたりした事で勉強する機会が増えました。また勉強をしていくうちに、何のために、誰のために勉強するのかという目的が明確になり、合格したいという意欲が強くなっていきました。

③ 合格後、仕事に活かされていること

まだ十分に活かしきれていませんが、チームの活動では、以前より発言できるようになりました。少しずつですが、QC 的モノの見方・考え方ができるようになったのかなと感じています。

製造部 工務課 宇原 大樹 2017 年第 1 回合格

① 受検動機

チームの方針で、各々のスキルアップの為、QC 検定を全員取得しようという話が上がりました。自分としても、後輩も増え、日頃の仕事や QC 活動を進める中で、後輩へのアドバイスをしていく立場にもなり、きちんとした基礎知識を、もう一度勉強する必要があると感じ、資格取得にチャレンジしました。

② 受検前・受検時の感想

今までの仕事の経験もあり、ある程度は理解しているだろうと思っていましたが、いざ試験勉強をしてみると自分が「理解していたつもり」になっていたことが、はっきりと分かりました。すぐに本屋さんで参考書を購入し、1 から勉強をし直すつもりで、試験勉強に取り組むようにしました。計算問題など、最初はまったく理解できませんでしたが、繰り返しやっていると徐々に出来るようになってきました。

③ 合格後仕事に活かされていること

「合格できた」ということは、自分にとって大きな自信に繋がりました。仕事や QC 活動で、自信を持って発言出来るようになり、チーム内で活発な意見交換が出来るようになったように感じます。ですがこれで満足せず、次へのステップの為 2 級チャレンジも含めて、これからも勉強していくようにします。

営業本部 製品開発課 生産技術係 坂東 幸奈 2017 年第 2 回合格

① 受検動機

チームで QC サークル活動についての話し合いをした時、表の意味や見方、テーマ選定の仕方などがよく分らず、一つも提案や意見を出すことができませんでした。QC 検定の勉強会があると聞き、受講して品質管理の知識を身に付けようと思ったのがきっかけです。

② 受検前、受検時の感想

確実に合格する為には過去問をしっかりやって、色々なパターンを練習し、応用問題が解けるようになっておく必要があると思います。その為には答えを覚えるだけではなく、理解する事が大切だと感じました。

③ 合格後、仕事に活かされていること

合格後は勉強して得た知識から、いかに品質管理が大切であるか知ることができました。QC サークル活動では、表の作り方、要因の追求ができるようになり、QC 活動に主体的に取り組めるようになりました。また品質管理の知識が身に付いた事で、自分の意見を発言できるようになり、チームの活動にも貢献できるようになってきたように感じています。

総務部 総務課 労務係 吉岡 侑香 2016 年第 2 回合格

① 受検動機

入社後の半年間、チームで行っている QC 活動に全くついていけず、活動目的や内容を理解できない現状が悔しいと思った事がきっかけです。また資格取得に向けた学習で、QC 活動に関する内容のみならず、仕事の質（品質）向上や、目標に向けたプロセスなどに関する知識も習得したいと考え、挑戦することを決めました。

② 受検前、受検時の感想

社会人になり初めての資格挑戦で、勉強時間の捻出に不安がありましたが、工夫を凝らし、隙間時間を上手く使えるようになりました。知識を習得するにつれ、QC 活動でも発言できるようになり、勉強をすればするほど楽しくなったというのが率直な感想です。試験日まで先輩方が何度も勉強会を開催してくださったので、当日は自信をもって臨む事ができました。

③ 合格後、仕事に活かされていること

品質管理の勉強を進めている中で、これまでは表面的な問題点ばかりに気をとられていたという事に気付き、問題の真因に辿り着くことを意識して業務を進められるようになりました。しかし、質の高い仕事をするには、まだまだ知識と経験が乏しく感じます。今後は小さな改善をコツコツ積み重ね、しっかりと成果に繋げられるようにしていきます。

総務部 経営管理課 経営管理係 榎渕 恵 2017 年第 1 回合格

① 受検動機

私が受検するきっかけとなったのは、リーダーから勧められたからでした。何れは受けなければいけないだろうと思い、受検しようと決めました。

② 受検前、受検時の感想

受検勉強は主に会社の昼休みの時間を使って、実松主任に教えて頂きました。私は特に、QC 検定に出てくる用語を覚えるのが苦手で、4 級の教科書を使って、用語に慣れる所から始めました。4 級の教科書には初めてでも理解できるような分かりやすい説明が多かったです。また QC 検定の手法編では、公式を覚えておく事が重要ですが、年々 試験範囲も広がっているようで、覚えなないといけないモノが多く大変でした。試験本番でもギリギリまで時間を使いました。自分が計算するのにどれだけ時間がかかるのか、実際に時間を測り知っておく事。それに過去問を多く解いて、問題に慣れる事が重要だと感じました。

③ 合格後 仕事に活かされている事

私が働く経営管理課という部署では主に、データから得られた情報を、各チームへ発信すると

いう仕事を行っています。今回 勉強した手法で、データをより細かく分析したり、データを目的に沿った形で、分りやすく表現する方法を学びました。情報をより分りやすく表現する事で、他チームの方とも目的を共有しやすくなり、それが成果につながっていく。そういう活かされ方をしているように思います。

総務部 経理課 資材係 安平 千晶 2017 年第 1 回合格

① 受検動機

私の受検動機はチームメイトが、一緒に受けようと誘ってくれた事です。何れは必要になる資格で、同期と一緒にのほうが頑張れるかなと思い、受検を決めました。

② 受検前・受検時の感想

少しずつ勉強しようと思ったのは試験の 3 か月以上前でした。会社で勉強会を開いていた人が、たまたま高校の同級生で気安かった事もあり、チームメイトと一緒に勉強会を始めました。自分でも過去 5 年間の問題集を購入し、過去問から解いていきました。5 年前の問題を解いて『これなら大丈夫かな・・・』と最初は軽く考えていました。ところが最新の試験を解いてみると、急に難しくなっていて殆ど分らず、慌てて本格的に勉強を始めた頃には試験が目前に迫っていました。それでも合格できたのは、一緒に勉強してくれた仲間がいた事。それに、家族の協力があったからです。

③ 合格後仕事に活かされていること

QC サークル活動に参画していると、特性要因図、系統図法などをよく使います。今までは何の為にその手法を使うのか、意味も分らずに使っていた事が殆どでした。QC 検定を勉強し、手法の意味を理解した事で、QC サークルへの参画度合いがより深まりました。

8 QC 検定に期待すること

4 級、3 級と合格した社員が、いざ 2 級となると急に難しくなって 2 級受検を諦めるケースが出てきます。3 級と 2 級の間にもう 1 段階設けて頂き、学習意欲の継続が出来るようにしていただければ有難いです。

それから、当社で受検のネックとなっているのは勉強の機会です。日本規格協会様主催の勉強会などに出ようにも開催場所が遠く、かと言って当社単独で講師を頻繁にお招きするのも難しい。例えば同じ意思を持つ近隣の企業さんと合同で講師をお願いできるような橋渡しをしていただけるといった機会があれば嬉しいです。

最後に QC 検定の知名度について、日本でも有数のメーカー様が協賛企業で名前を連ねていますが、中小企業への浸透度はまだまだだと思います。PR を積極的によりしくお願いします。

9 学校に期待すること

社会に出ると、聴きなれない言葉、分からない用語が飛び交って最初は戸惑うと思います。

QC 検定 4 級読本[※]は、それをカバーしてくれています。会社の理念などを理解する上でも必要なので、卒業前、社会に出る前のタイミングで授業に取り入れていただければと思います。

※QC 検定センター注：QC 検定ホームページで公開している 4 級用テキスト（4 級の手引き）

以 上